

様式第3号

研修報告書（研修費）

平成30年11月5日

長久手市議会議長
川合 保生 様

長久手市議会議員 木村 さゆり ㊞

政務活動費を充てることができる経費の範囲の運用指針により次のとおり届け出ます。

年 月 日	平成30年 10月 12日（金）から 平成30年 10月 13日（土）まで2日間
研 修 先	日本女性会議2018in 金沢
成 果	別添のとおり
経 費	金 28,670 円（政務活動費対象経費） 金 28,670 円（全体経費） （明細は別添のとおり）
提 出 資 料	○領収書の写し

※研修を実施した後は議長に1カ月以内に提出するものとする。ただし、1カ月以内が翌年度の4月20日を経過する場合は20日までとする。

行程表

日本女性会議 2018 金沢

平成30年10月12日(金)

7:45 地下鉄 8:50 JR特急しらさぎ3号 11:48 北陸鉄道バス
藤が丘駅 → 名古屋駅 → 金沢駅 → 本多町 →
13:00~14:00 バス 15:00~17:00 北陸鉄道バス
金沢歌劇座ホール → 北國新聞赤羽ホール → 南町・尾山神社 → 金沢駅 →
→ ガーデンホテル金沢

平成30年10月13日(土)

8:30 北陸鉄道バス 9:30~16:00
ガーデンホテル金沢 → 金沢駅 → 本多町 → 金沢歌劇座ホール → 本多町 →
北陸鉄道バス 16:48 JR特急しらさぎ14号 JR新幹線ひかり532号(18:57) 19:25
→ 金沢駅 → 米原駅 → 名古屋駅 →
地下鉄 20:00
→ 藤が丘駅

費用明細

藤が丘 ⇄ 名古屋	600	地下鉄
名古屋 → 金沢	7,330	JR特急しらさぎ3号(指定席)
金沢 → 本多町	200	北陸鉄道バス
南町・尾山神社 → 金沢	200	北陸鉄道バス
金沢 ⇄ 本多町	400	北陸鉄道バス
金沢 → 米原	7,240	JR特急しらさぎ14号 JR新幹線ひかり532号
米原 → 名古屋		
ガーデンホテル宿泊代	9,200	
大会参加費	3,500	
計	28,670	

日本女性会議2018 in 金沢 研修報告書

平成30年11月5日（月）

木村 さゆり

平成30年10月12日（金）～13日（土）

基調報告「フェアネスの高い社会の構築に向けて」 内閣府男女共同参画局長 池永肇恵

男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画の実現は、将来に夢や希望を持ち、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりを進めるうえで必要不可欠。日本女性会議は、1984年以来毎年開催され、今年で35回目を迎える。この間、1985年に男女雇用機会均等法、1991年に育児休業法、1999年に男女共同参画社会基本法、2001年にDV防止法、2015年に女性活躍推進法が成立、さらに、2018年5月には、政治分野における男女共同参画推進法が成立・施行されるなど、男女共同参画社会の実現に向けた法制度が着々と整備されてきた。女性活躍の場が広がることで、多様性を生み、付加価値を生み出す原動力となる。人生100年時代を見据え、男女ともに健康の確保のみならず、働き方改革を強力に推進し、就業する全ての女性が、能力を発揮でき、さらに働きがいを持てる就業環境を整備することが必要。

その前提として欠かせないのは、女性特有の健康問題、男女間の不合理な賃金格差、ひとり親女性が抱える困難、セクシャル・ハラスメントを含む女性に対する暴力の問題などを解決し、社会の中で、女性の男性同様、社会人の一人として自分の能力を発揮できるような、フェアネスの高い社会の構築である。

分科会6 健康寿命延伸における性差を考える。

人口減少といわれる中、人生100年時代が到来。世界に類を見ない少子高齢化時代を乗り越えるための課題が山積し、どのように解決していくか世界が注目している。4名のパネリストが講演された。堀江重郎順天堂大学医学部大学院医学研究教授はやる気を高めたり、世の中でうまく立ち回ったりする際働く体内物質として男性ホルモン「テストステロン」について話された。

テストステロンの分泌量は加齢に伴い低下し、また個人差も大きい。一日の中でも数時間のうちに分泌量が増え、めげる、がっかりする、といった精神的ストレスでも下がるし、激しい運動の後も下がる。加齢以外の外的要因に左右されやすいため、日ごろの生活で気をつけたいポイントは3つ。睡眠、運動、社会との関わりである。テストステロンは睡眠中に分泌量が増えるためよく眠ることが必要。次に適度な運動（ウォーキングやジョギングのような有酸素運動、筋トレ等）そして、テストステロンは男性ホルモンであると同時に社会性ホルモンでもある。趣味のサークルでも、行きつけの店でもよい自分が認めてもらえて自信が持てる「芝生」を探すことと、社会環境への貢献「他人に与える」ボランティア活動や弱者を助けようという気持ちとテストステロン値には相関関係がある。テストステロン値をあげる方法は胸を張ること。胸を張ったポーズを2分間続けるだけで数値が上がる。また、高血糖、高血圧、脂質異常といったメタボの要因が増えるほど、テストステロン値は低くテストステロンは健康寿命に深くかかわっている。

石川宣言：健康は、体と心、社会との関わりが、自分らしく生き生きと輝いている状態をいう。100年人生を自分らしく生きるためには、質の良い教育を受け、自分らしく快適な心身を保つ技術を身に付け、妊娠や出産の時期を自分で選び、仕事や個人の生活を楽しみ、主体的に社会と関わって生きることが大事。すべての女性や男性が、個人として尊重され、多様な人々と楽しい人生を共有できることを願う。

記念シンポジウム

これからの生き方・働き方のカタチ ～「結婚」の選択肢が不人気なわけ～

ライフスタイルや価値観が多様化する現代。仕事・結婚・子育て・介護などさまざまなライフステージにおいて、私たちを取り巻く環境も変化している。2017年の平均初婚率年齢は「夫31.1歳 妻29.4歳」で上昇が続いている。また婚姻件数・婚姻率も2013年から5年連続で減少（厚生労働省人口動態統計2018年6月）。さらに、生涯未婚率も1995年以降急増している。（国勢調査）

現代女性が抱える生き方や働き方にかかる障壁と向き合いながら、自分らしく生きることについて考える。

おおたわ史絵氏の講演の中では、未婚率の増加の要因は、選択肢がたくさんある時代、結婚とは自分の思い通りにいかないことばかりの連続であり、そのことに対する恐れがある。今の時代一人で十分生きていけるため未婚の選択肢が増加している。

パネリストの塩谷マスケウダ氏は、(インドの女性で大学の准教授)日本は世界で一番幸せな国、平和ですべてが叶う。思うようにいかななくてもあきらめないでと。

男女共同参画社会は進みつつあるが、結婚に対するハードルを高いと感じている人は多く、未婚率の改善につながっていない。ある企業が提供している「家族留学」プレママ、プレパパ世代の若者が子育て家庭に1日留学し、先輩ママ、パパとの交流、育児体験を通して、生き方のロールモデルに出会い、ライフキャリアの選択や結婚、出産、子育てのリアルを学ぶ事業。

こういった企業まで登場する背景には、予測不可能のものに対する現代人の不安の表れではないだろうか。

長い人生思い通りにならないことの連続であると思う。思い通りにならないからこそ学ぶこともあるし、相手の立場に立って物事を考えることができるのではないだろうか。

急速な少子高齢化、グローバル社会の中で、従来の価値観では対応しきれず、大きな見直しが求められている転換期に立っている。ただ、講師の方々がおっしゃった女性が自分らしく生き生きと満足いく人生を送るため、「あきらめない」というキーワードは大切ではないかと実感した。



